

JACET中国・四国支部 Newsletter

第7号

目次

● 巻頭言	支部長 松岡 博信	pp.1-2
● 2011 年度支部大会報告	大会委員長 高橋 俊章	pp.3-4
● 2011 年度役員会報告	事務局幹事 平本 哲嗣	p.5
● 2011 年度支部研究会のお知らせと発表募集要領		pp.5-6
第1ブロック (広島・山口・島根)		
第2ブロック (岡山・鳥取)		
第3ブロック (四国)		
● OPP イベント募集のお知らせ	OPP 代表 岩井 千秋	pp.6-7
● 『JACET 中国四国支部研究紀要』投稿募集要項		p.7
● 事務局だより		pp.7-8
● 編集後記		p.9

巻頭言

中国・四国支部長 松岡 博信

JACET の新たなる旅立ち

本年3月11日(金)午後、宮城県沖を震源とする大地震とその後の大津波により、東日本は未曾有の災害を被り、阪神・淡路大震災をはるかに上回る死傷者と行方不明者を出した。ここに亡くなった方々を哀悼し、ご遺族に心よりお悔みの言葉を申し上げたい。また、被災地に住まわれている方々が、一日でも早く元の生活を取り戻されるように祈りを捧げ続けたい。

さて、3月中旬開催予定だった JACET の理事会および社員総会は、東日本大震災のために延期となり、6月18日(土)に理事会が東京の神楽坂近くの JACET 事務所で、19日(日)に社員総会が早稲田大学で開かれた。以下は、出席した両日の会議の報告である。

理事会は午前11時から午後17時半までに渡る長丁場で、延期になった分、議事資料が膨大なページに渡って製本されており、いかに JACET 本部の運営が専任の事務の方々によって粛々と行われているかが分かった。

現在 JACET が抱える最大の課題は、旧の社団法人から新制度の一般社団法人へのスムーズな移行である。ここで JACET が現在置かれている状況を把握してもらうためにウィキペディアから以下の部分を引用したい。

「2006年5月の第164回通常国会にて、公益法人制度改革として、社団法人・財団法人のあり方を抜本的に見直すための公益法人制度改革関連3法（一般社団法人法、公益法人認定法、関連法案整備法）が成立した。2008年12月1日より全面施行され、民法の法人の規定が大幅に削除されたほか、中間法人法が廃止された。これは、公益性ある団体に限り、許可制により設立を認めていた従来の社団法人・財団法人制度（許可主義）を見直し、中間法人も取り込んだ概念にするものである。すなわち、剰余金の分配を目的としない（営利性を有しない）社団法人・財団法人について、その行う事業の公益性の有無にかかわらず、設立の登記をすることにより法人格を取得することができる一般社団法人及び一般財団法人の制度（準則主義）を創設するものである。そして、公益性のある団体は、別途総理大臣や知事の認定により、公益社団法人・公益財団法人の名称を用い、税制上の優遇措置を受けることとなる。」

JACET は社団法人となったが、すぐに新制度下の一般社団法人となるか公益社団法人になるかの選択を迫られた。確かに学会であるので、公益社団法人として認可されるのが最善であるが、公益社団法人として認められるには、活動の細部に渡って、どれが公益性を有するものであるかを事細かく分類し、そのために支出する費用のどれくらいの割合がそれに充当するものであるかまで報告しなければならないという膨大な事務量を負う羽目になる。よって、専任の会計士を持たない本学会では到底無理であるという結論に至った。当然のことながら、理事会が出した結論は一般社団法人への移行である。この結論は、6月19日の社員総会（社員総会と言っても、理事を除く社員の参加者は20名ほどであり、大半が書面参加であった）で承認された。これにより、今後は一般社団法人化へのルールを進み、遅くとも3年から5年のうちにはその

移行が完了する予定である。

その他、JACET が目指す改革の一つに、支部活動の活性化がある。現在は、支部会員の数に応じて本部から毎年予算が配分されているが、今後は、ベースとなる支部予算を設定し、それに加えて支部会員の人数に基本額を乗じた予算を配分することになる。結果的に中国・四国支部の予算も少し増えて、支部活動もし易くなるであろう。ちなみに、本年3月末の JACET の会員数は、全体で 2,716 名であり、北海道支部 108 名、東北 89 名、関東 1,181 名、中部 313 名、関西 642 名、中国・四国支部 154 名、九州・沖縄 229 名である。

前述したように関東支部は 1,100 名以上の会員を擁する大きな支部であるが、最近までは本部＝関東支部のような状態を呈していた。しかし現在では、関東支部を本部から切り離して別箇の組織とすることによって、関東支部の自律性を高め、支部としての活動を活性化しようとする方策も着実に進んでいる。その他、理事会では本部紀要および JACET 賞の充実を図る取り組みなど様々な議題について活発な情報および意見交換がなされた。

JACET はご存じのように、かつては中央集権の道をひたすら進み、支部活動の積み上げの上に本部事務局が存在するという組織形態ではなかった。しかし、年に2回発行される本部紀要が年々薄くなるのに反して各支部の活動や紀要が充実して来るに伴い、支部活動の活性化無くしては JACET の今後の発展は見込めないということ本部役員も認識し始めたように思える。これは全国大会運営においても言えることであり、本部の全国大会運営委員会が中心となって推進してきた全国大会も、今後は、支部の実行委員会による直接的な大会運営にシフトするであろう。

「地方の時代」と言われて久しいが、実際には進まず、今回の震災を契機に東京一極集中の弊害が露呈した結果の大阪などへの副首都構想が出てきたのとは異なり、JACET は、一般社団法人への完全移行の過程で、支部活動の一層の充実を目指した新たなる旅立ちを始めようとしている。今後とも本部および支部役員に対する益々のご支援をお願いしたい。
(安田女子大学)

2011 年度支部大会報告

大会委員長 高橋 俊章

2011 年度の支部大会を、6 月 4 日（土）に山口大学教育学部にて開催致しました。参加者は会員 24 名、非会員 19 名の計 43 名でした。遠い山口での開催にも関わらず、非常に多くの方に参加して頂いたことを本当にありがたく思っております。

今回の支部大会の開催においては、山口大学教育学部の後援を得ることができたため、施設使用料を支払う必要がなくなったこと、そして、参加者が大学の駐車場を利用出来るようになったことは、大会運営上大変助かりました。関係者に深く御礼申し上げます。

大会直前まで心配していた発表件数も、最終的には 6 件となり、様々な発表を聞くチャンスを得ることができました。

第 1 室（教育学部 B 棟 22 番教室）では、3 件の研究発表が行われ、池野 修先生（愛媛大学）が司会を担当してくださいました。

研究発表 1 は、松岡博信先生（安田女子大学）、榎田一路先生（広島大学）、橘野実子先生（安田女子短期大学）の共同研究で、松岡先生が「リスニング力の構成要素について」の題目で発表されました。内容は、ディクテーションスパンとリスニング力の関係に焦点を当てたもので、ディクテーションスパンの長さ（つまり、ワーキングメモリの効率性）を高める練習の重要性が報告されました。

研究発表 2 では、Judith Runnels 先生（広島文教女子大学）が「Fairer Assessment: How to Start Making a Speaking Test」の題目で、発表されました。発表では、スピーキングテストでも到達度テストと同様に、授業で学習したものの中からテスト項目をサンプリングして、適正に評価を行う必要性が報告されました。

研究発表 3 では、Gary Cook 先生と Erica Sponberg 先生（広島文教女子大学）

が「Vocabulary Test for Dummies: Starting from Scratch」の題目で発表されました。発表では、学生が大学で使用する英語テキストの中から学習語彙リストを選択・抽出することの必要性、そして、学生の語彙力を測定するときには、単語の意味だけでなく、「言語使用」(USE)を測定することの重要性が報告されました。

第 2 室（教育学部 B 棟 23 番教室）でも 3 件の研究発表が行われ、鳥越秀知（香川高等専門学校）先生が司会を担当してくださいました。

研究発表 1 では、尊田 望先生（山口大学非常勤）が「Semiotic Functions of English in Japanese College Students' Daily Life」の題目で発表されました。発表では、カタカナ英語が、大学生の日常生活では象徴的な意味合いで頻繁に使われており、この事実を英語教育の指導に活かす可能性が報告されました。

研究発表 2 では、田淵博文先生（就実大学・就実短期大学）が「ロアルド・ダールの短編“The Hitchhiker”における言語表現とユーモアについて」の題目で発表されました。発表では、登場人物である自称指細工師（fingersmith）と名乗る人物の話す英語に着目しながら、主に冒頭と終結部の描写を言語学的に分析することにより、作家の意図した、驚くような仕掛けに気づくことが報告されました。また、そのような言語的仕掛けに生徒自身が気づくようにするための指導上のヒントも報告されました。

研究発表 3 では、高垣俊之先生（尾道大学）が「短期語学留学と英語習得に関する一考察」の題目で発表されました。発表では、日本人大学生の短期語学留学における言語習得環境（留学の種類、留学生活中の時間配分、英語の質、認知的負荷）と英語習得やコミュニケーション能力獲得との

関係が、先行研究の結果と合わせて報告されました。

自由研究発表が終わると、会場を附属教育実践センター2Fに移し、「2010 Oral Presentation and Performance」の題で岩井千秋先生（広島市立大学）より、昨年度の12月18日に広島工業大学で開催された第2回OPP研究会発表会についての報告が行われました。

ダイジェスト版のビデオ映像で当日行われた7つの発表を振り返りながら、OPPの活動の様子や成果が報告されました。この報告を通して、OPP活動のすばらしさ、楽しさをあらためて味わうことができました。

15:45からは、同じく附属教育実践センター2Fで、「英語の授業を英語で行う実践例」の題目でシンポジウムが開催されました。

シンポジウムでは、樫葉みつ子先生（広島大学）、田辺尚子先生（安田女子大学）、梅地哲郎先生（山口県立華陵高等学校）をお迎えして、内容の濃い実践報告や意見交換の機会を得ることができました。

シンポジウムでは、それぞれの先生が20分程度ずつ、中学校、大学、高等学校での実践例を報告されました。

樫葉先生の発表では、チャットやディベートなどを用いた中学校での実践例（楽しそうに取り組み易そうな活動例）がビデオ映像とともに、わかりやすく紹介されました。

英語で英語の授業ををすると言えば、ついつい私たちは先生が英語を話す場面ばかりを想起しがちです。しかし、考えてみれば、樫葉先生が指摘されたように、生徒が英語を話す部分を多くすること（そして、生徒のコミュニケーション能力をつけさせること）が、英語で英語の授業をする目的であるはずだとの主張は、まさにその通りだと思われ、とても印象的でした。

田辺先生の発表では、主に大学での実践をふまえながらどのようにしていけば、英語で英語の授業を行って行くことが現実的に可能となるのかについて、しかも、ど

うすれば生徒の興味や関心を維持できるのかについて報告がなされました。例えば、動機づけのためのウォームアップ、理解度を確保するための日本語使用、そして、自己表現を手助けするために行う異なる意見のリスニング、自分の意見を英作文した後のペア発表などたくさんのアイデアを（豊富な例や調査データを用いて）提示して頂きました。

3番目の梅地先生は、食べれば英語がマスター出来るカロリーメイトがあったら膨大な量でも食べるかといった例や、「伝家の宝刀」か「台所の包丁」かというように、英語の実用性を例えながら、英語で英語の授業を行う意味や目的がどこにあるのかについて話されました。

生徒ではなく、先生が英語を話す時間が長くなりすぎても、生徒の力はつかないという梅地先生の主張、そして、英語で英語の授業を行うことが目的化するのにはナンセンスであるという主張にはまったく同感でした。

全体的に、スケジュールが後ろにずれたため、とても短い時間しか質疑応答の時間がなかったにも関わらず、3人のシンポジストの先生からは適切で有益なヒントをたくさん頂きました。

多忙な中、シンポジウムの準備のためにたくさんの時間を割いて発表して頂いたシンポジスト3人の先生方にこの場を借りて御礼申し上げます。

また、いろいろ、大会の運営上不十分なところがあつたと思いますが、皆様のおかげで無事支部大会を終了できました。本当にありがとうございました。

なお、支部大会終了後、湯田温泉近くの会場で懇親会を開催致しました。いろいろな地区から集まった先生方と楽しい親睦の機会を持つことが出来、日頃の疲れを忘れることができました。ありがとうございました。

2011 年度役員会報告

6月4日(土)に支部役員会を山口大学の教育学部で開催いたしましたので、ご報告いたします。

1. 審議事項

1) 平成23年度の活動計画について

◎2011年度支部大会

場所：山口大学教育学部

日時：2011年6月4日(土)

◎OPP イベント

場所：検討中

日時：2011年12月17日(土)

◎ブロック研究会

第1ブロック 2011年10月1日(土)
広島工業大学

第2ブロック 2011年10月15日(土)
香川大学

第3ブロック 2011年11月5日(土)
松山大学

◎支部ニューズレター

第7号(7月中旬)

第8号(1月下旬)

◎支部総会の開催

場所：山口大学教育学部

日時：2011年6月4日(土)

◎支部役員会の開催

第1回 2011年6月4日(土)

第2回 2011年10月1日(土)

第3回 2012年3月(メールによる会議の
予定)

◎2011年度人事案

2) 平成24-25年度全国役員および支部役員の人事について

◎上記年度における支部長と社員の人事について、6月4日の支部総会において信任選挙を行うことを決定した。

3) 支部紀要について

◎支部紀要掲載論文の著作権に関するガイドラインを反映し、『大学英語教育学会中国・四国支部研究紀要』発行規程の改定が行われた。

2. 報告事項

1. 中国・四国支部紀要編集委員会報告

◎紀要第8号編集経過の報告

◎会計報告

◎紀要オンラインデータベース化

2. その他

OPPの報告書が配布され、2010年度の活動が報告された。

(事務局幹事 平本 哲嗣)

2011 年度支部研究会のお知らせと発表応募要領

支部研究会

第1ブロック(広島・山口・島根)研究会

日程：2011年10月1日(土)

場所：広島工業大学

第2ブロック(岡山・鳥取)研究会

日程：2011年10月15日(土)

場所：香川大学

第3ブロック(四国)研究会

日程：2011年11月5日(土)

場所：松山大学

A) 応募情報

(英語での併記もお願い致します)

- a. 発表題目 (Title): 日本語と英語
- b. 種別 (Style): 自由研究発表, 実践報告, 事例研究など
- c. 氏名 (Name):
- d. 研究領域 (Research Area):
- e. 概要 (Abstract): 目的, 背景, 仮説, 方法, 結論, 引用文献など日本語の場合は 600 字以内, 英語の場合は 250 words 以内とする。
- f. 所属 (Affiliation):
- g. 使用機器 (Equipment needed):
- h. 連絡先 (Contact Address): メールアドレスなど
- i. 発表を希望する研究会
 1. 第 1 ブロック (広島・島根・山口)
 2. 第 2 ブロック (岡山・鳥取)
 3. 第 3 ブロック (四国)

B) 申込応募期間

第 1 ブロック

2011 年 8 月 1 日(月)～9 月 15 日(木)
午後 11 時 59 分まで。

第 2 ブロック

2011 年 9 月 1 日(木)～10 月 1 日(土)
午後 11 時 59 分まで。

第 3 ブロック

2011 年 9 月 15 日(木)～10 月 15 日(土)
午後 11 時 59 分まで。

C) プログラムおよび発表スケジュール など詳細は,

1. 第 1 ブロックは 9 月下旬
 2. 第 2 ブロックは 10 月上旬
 3. 第 3 ブロックは 10 月下旬
- にそれぞれ E-mail で通知いたします。

■中国四国ホームページアドレスにも掲載いたします。

<http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~bld10/JACET/>

■申込先

事務局幹事 平本哲嗣

hiramoto@yasuda-u.ac.jp

第 3 回 OPP イベント募集のお知らせ

JACET 中国・四国支部では, 研究交流活動の一貫として今年も Oral Presentation and Performance (OPP) イベントを実施いたします (イベントの日時等については, 下記をご参照ください)。現在, このイベントでの発表参加者を募集しています。

募集条件

1. JACET 支部会員であればどなたでもエントリーできます。
2. 先生方が授業で指導されている学生さんにプレゼン (平均 10～15 分程度, 上限 30 分まで) をしていただきます

(先生の発表参加も可。)

3. 募集は先着順とし, 8 名 (学校数) に達し次第, 終了とさせていただきます。
4. 申込みは代表者にメールしてください。
iwai@intl.hiroshima-cu-ac.jp

OPP 研究会は 2009 年に発足し, 初回イベント (6 大学参加) を広島市立大学で, 第 2 回イベント (7 大学参加) を広島工業大学で開催しました。OPP の目的は, スピーチコンテストなどとは異なり, 英語学習者よる発表を競うことではありません。その目的は, 指導者にとっては指導力の向上と指導方法につ

いての情報交換, 学習者にとっては英語使用の意識と運用能力の向上にあります。残念ながら, これまでの2回のイベント参加校は広島県内の大学に限定されています。他県の先生方にも是非ご参加をご検討いただければ幸いです。なお, 第3回イベントは以下を予定しています。

開催日時 2011年12月17日(土)
午後1時～5時まで。

開催場所 未定(候補地が見つからない場合は, 初回と同じ広島市立大学で実施予定。)

OPP ウェブサイト: http://chiaki.intl.hiroshima-cu.ac.jp/Bulletin/07OPP/OPP_index.htm

OPP イベントには会員の皆様はもちろん, 会員以外の皆様のご来場も大歓迎です。今年も多くの皆様のお越しをお待ちしています。

(OPP 代表 岩井千秋, 広島市立大学)

～『JACET中国四国支部研究紀要』投稿募集～

質的研究や量的研究など様々な観点に基づく論文, リサーチ・ノート, 実践・研究報告, およびブックレビューの4つの分野の研究成果を発表する場として, 年一回3月に支部紀要を刊行しています。

応募資格は, 所定の学会費を完納した支部会員とします。ただし委嘱原稿については, この限りではありません。

投稿論文は, 原則として過去2年以内に開催された全国大会および支部大会で発表を行った研究にもとづくものが望ましいです。

審査は, 委嘱原稿を除き, 紀要編集委員会が指名する審査員が担当し, 査読の結果を踏まえて編集委員会が採用の可否を決

定いたします。

JACET中国・四国HPにある投稿規程をご参照の上, 奮ってご応募ください。

なお, 発行までの日程は原則として下記のとおりです。

- 投稿原稿締め切り: 10月末
- 審査結果通知: 12月末
- 修正原稿締め切り: 1月末
- 刊行: 3月末

送付先: 紀要編集委員会委員長
角山照彦 (広島国際大学)

E-mail: kadoyama@it.hiriokoku-u.ac.jp

～事務局だより～

今年度より支部の事務局が三宅美鈴先生(広島国際大学)より平本哲嗣(安田女子大学)に移転いたしました。新事務局の連絡先は以下のとおりです。

〒731-0153
広島県広島市安佐南区安東 6-13-1
安田女子大学 平本哲嗣研究室内

電話(ダイヤルイン) 082-878-9637
E-mail hiramoto@yasuda-u.ac.jp

所属, メールアドレス, 住所, 身分・資格などが変更された場合には, 事務局本部 jacet@zb3.so-net.ne.jp までご連絡ください。

★新入会員紹介★

2011 年度の新入会員をご紹介します。
(敬称略) (2011 年 7 月現在)

Serag, Adam (愛媛大)
Kodate, Azusa (広島文教女子大)
Lee, Chyia-chia (TTA-ROC 大学院生)
MicMillan, Brian (広島文教女子大)
奥田 利栄子 広島大学(非常勤)
藤居 真路 広島大学(大学院生)
杉村 寛子 岡山県立大学
Murray, Garold 国立大学法人 岡山大学

どうぞ、よろしく願いいたします。

★2011 年度支部人事★

2011 年度の支部人事および本部運営委員
をお知らせ致します。支部活動発展のため
に力を尽くしますので、どうぞよろしくお
願いいたします。

支部長(理事) 松岡博信 (安田女子大学)
副支部長 岩井千秋 (広島市立大学)

社員

筏津成一 (鳥取大学)
岩井千秋 (広島市立大学)
池野 修 (愛媛大学)
小山尚史 (岡山大学)
高橋俊章 (山口大学)
高垣俊之 (尾道大学)
瀧 由紀子 (松山大学)
田淵博文 (就実大学・短期大学)
鳥越秀知 (香川高専)
三宅美鈴 (広島国際大学)
堀部秀雄 (広島工業大学) (補欠)
西田 正 (福山大学) (補欠)
宮迫靖静 (岡山南高校) (補欠)

事務局幹事 平本哲嗣 (安田女子大学)
支部幹事 高橋俊章 (山口大学)
三宅美鈴 (広島国際大学)

研究企画委員

筏津成一 (鳥取大学)
池野 修 (愛媛大学)
小山尚史 (岡山大学)
角山照彦 (広島国際大学)
田淵博文 (就実大学)
高橋俊章 (山口大学)
高垣俊之 (尾道大学)
寺嶋健史 (松山大学)
鳥越秀知 (香川高専)
平本哲嗣 (安田女子大学)
堀部秀雄 (広島工業大学)
三宅美鈴 (広島国際大学)
西田 正 (福山大学)
山川健一 (安田女子大学)
ローレンス・ダンテ (就実大学)

支部会計 山川健一 (安田女子大学)

支部研究紀要編集委員会

角山照彦 (広島国際大学)
磯田貴道 (広島大学)
岩井千秋 (広島市立大学)
高橋俊章 (山口大学)
平本哲嗣 (安田女子大学)
堀部秀雄 (広島工業大学)
松岡博信 (安田女子大学)

★2011 年度本部運営委員★

総務委員会 (支部代表幹事)
平本哲嗣 (安田女子大学)
財務委員会 (支部会計担当)
山川健一 (安田女子大学)
全国大会 田中博晃 (広島国際大学)
広報・通信 鳥越秀知 (香川高専)
ネットワーク管理
松岡博信 (安田女子大)
紀要 角山照彦 (広島国際大学)
セミナー事業 田淵博文 (就実大学)
国際交流 堀部秀雄 (広島工業大学)
研究会担当 岩井千秋 (広島市立大学)
JACET 賞 筏津成一 (鳥取大学)

編集後記

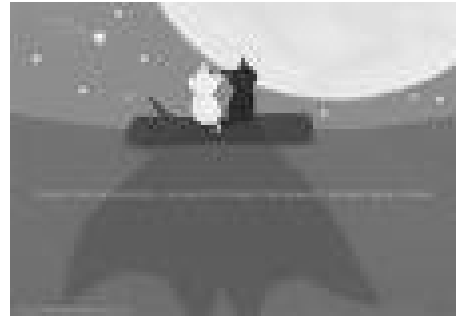
梅雨も明け、本格的夏の到来です。今年は節電対策のため、大学も家庭もどこかしこで“あたり”が落とされているような気がします。英語で節電を呼びかけるとすれば、

“To Save Energy. Turn Off the Switch After Each Use, Please!” でしょうか。

少し照明を絞り、自然の月明かりを頼りに語り合うのも一興ですね。

今年の支部大会も無事、成功裡に終えることができました。この3月の東北大地震の後、いつものようにできることがいかに幸せであるのかを改めて考えさせられました。支部大会を開催することができたことは、役員を初め参加して下さった会員の皆様のお陰であることは、言うまでもありませんが、例年と同じように開催できたことに

感謝です。今後10月・11月と支部研究会が開催されます。開催できることに感謝しつつ、引き続きご参加いただければ幸いです。（MM）



JACET 中国・四国 Newsletter 第7号

2011年7月11日 発行

発行人：JACET 中国・四国支部（代表 松岡 博信）

編集：JACET 中国四国支部 三宅 美鈴

発行所：〒739-2695 東広島市黒瀬学園台 555-36 広島国際大学 保健医療学部臨床工学科
三宅 美鈴

連絡先：Tel:0823-70-4563 FAX:0823-70-4544 E-mail: m-miyake@it.hirokoku-u.ac.jp